

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成28年12月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

第42回日本診療情報管理学会学術大会を終えて

末永 裕之

日本診療情報管理学会 理事長

小牧市病院 事業管理者

10月12日から14日まで、国立国際医療センター名誉院長木村壯介先生を学会長として第42回日本診療情報管理学会学術大会が東京国際フォーラムで開催された。今回は3年に1回開催されるIFHIMA国際大会、WHO-FIC年次総会も同時に開催されるという大イベントであり、外国からは40か国以上、200名以上の参加もあって、それぞれの催しにも参加できるという非常に国際色豊かな学術大会であった。まさに大会テーマの「診療情報管理の新たな展開 個人から、社会へ、そしてGlobalな連携」に相応しい学術大会であった。

開会式ではWHO事務局長マーガレット・チャン先生が挨拶をされ、ICD-11リビジョン作業において日本病院会が10年に及ぶ資金援助も含めた多大な貢献をしてきたことに対して謝意を示され、ICD-11改定への期待を述べられた。

木村先生の大会長講演は「情報の質と量、その選択が必要な時代」の演題であった。情報の爆発ともいうべき時代の医療における記録をどのように考えるか、また、電子カルテの功罪、さらにAIの利活用に関しても触れられた。そして、医療の特殊性として人間らしさの確保、維持を意識することが必要で、それに合った記録のためのITの整備、発展が期待されると結ばれた。

私は「日本におけるこれからの診療情報管理士の役割 一進むべき道」の演題で講演した。昨年の本大会で大井名誉理事長が10年間の理事長の間にやり残したこととして挙げられた5つの項目、「・情報を知識、知恵に変換し得ているか・医療の質向上に寄与し得ているか・情報を昇華し患者に還元し得ているか・診療情報管理学会として進むべき道が示されているか・そのための会員の英知と総意が結集されているか」、主にこの5項目の大井先生からの「宿題」に関して「進むべき道」としての私の意見を述べた。

今回の日本診療情報管理学会学術大会では多くの発展途上国の診療情報に携わる人たちの発表に接することが出来た。それらの国では医師、看護師はじめ医療資源が極めて乏しい。その中で彼女たちには診療情報管理を通じて、何とか自分の国の医療の質の向上を図りたいとの熱い思いがほとばしっている。

先進国の発表から、診療情報管理・教育システムに関して取り入れるべきことは多いが、一方で途上国からも学ぶべきことが沢山あることを教えられた学術大会であった。

